

## 新町屋台（八朔屋台）

毎年開催される、生出神社の八朔祭（9月1日）では「屋台」が見どころの、壮大な祭礼行列が行われます。行進中、町の住民は、これらの豪華に装飾された屋台を担いで町中を練り歩き、みこしに乗った人々は音楽を演奏したり、踊ったりします。

この屋台は新町が所有しています。元々は、1812年に作られました。正面の竜の装飾が付いた、弓型の入母屋造りの切妻が特徴で、屋根の上のお飾りは飛ぶ竜を表しています。主な幕は「鹿島踊り」という題で、鹿島明神の使者と言われる3人の古老が、縁起の良い舞を踊る姿が描かれています。この幕の下絵は、浮世絵画家、葛飾北斎（1760～1849）の筆によるとされています。

新町屋台は、1920年代後半まで八朔祭で毎年使用されていましたが、解体し、保存されました。1996年、都留市民の要請により、高山祭屋台保存技術協会が再建、復元しました。それ以降、このみこしは毎年恒例の八朔祭の見どころとなっています。